

**A**

!

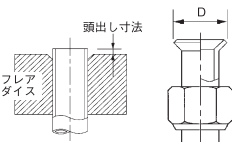
☐

●ユニットは水平に据付てください。  
前後、左右各辺は10°以内としてください。

#### 4. 冷媒配管

##### 冷媒配管時の注意事項

- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品をご使用ください。既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの説明書又はカタログ・技術資料で確認すること。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せずユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2種適合品を使用すること。
- 2) 再利用する場合、部分的に交換し新しい配管に、R410A用のフレア加工をしてください。

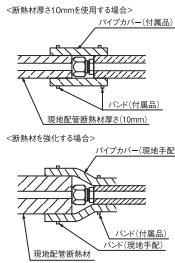


配管径 d mm	配管の 最小肉厚 mm	フレア加工 頭出し寸法 mm		フレア外径 D mm	フレアナット 締付けトルク N・m
		リジッド (クラッチ式) R410A 用	従来ツール		
6.35	0.8	0 ~ 0.5	0.7 ~ 1.3	8.9 ~ 9.1	14 ~ 18
9.52	0.8			12.8 ~ 13.2	34 ~ 42
12.7	0.8			16.2 ~ 16.6	49 ~ 61
15.88	1			19.3 ~ 19.7	68 ~ 82
19.05	1.2			23.6 ~ 24.0	100 ~ 120

- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管 (C1220T、JIS H 3300) をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等 (コンタミ) の付着がないことを確認してください。冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- R410A以外の冷媒は使用しないでください。
- R410A以外 (R22など) の冷媒を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端ともラップして直前までシールしてください。
- 冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具はR410A専用ツールを使用してください。

##### 作業手順

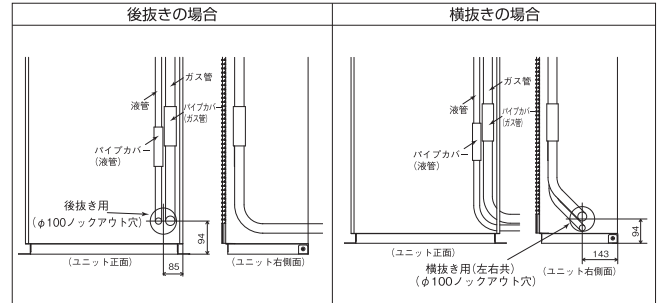
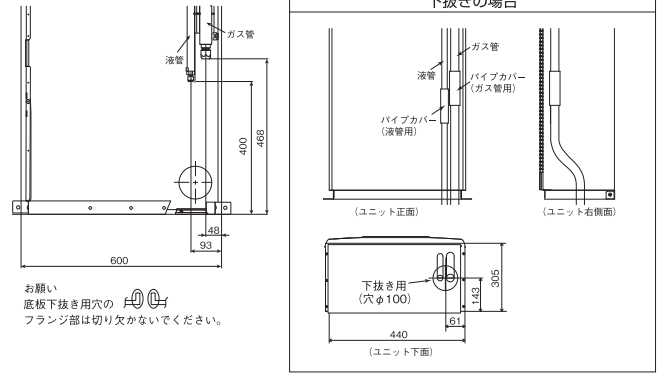
1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを取外す。
  - ※ ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けて外してください。(このときガスが出る場合がありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
2. 液管・ガス管をフレア加工し、冷媒配管を接続する。
  - ※ 配管の曲げは4D以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
  - ※ また配管をねじったり、2/3D以下につぶしたりしないでください。
  - ※ フレア接続は、以下のように行ってください。
    - ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けで表の締付けで締めてください。
3. 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
  - ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
  - ※ 配管は断熱しないことと結露し水漏れします。
  - ガス側配管の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。
  - 高温高圧部で使用する場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。
  - 室内および接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。



注意  
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摩擦係力が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しない。  
冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとすること。

#### 4. 冷媒配管 (つづき)

##### ◆配管・配線取出し位置



#### 5. ドレン配管

##### 警告

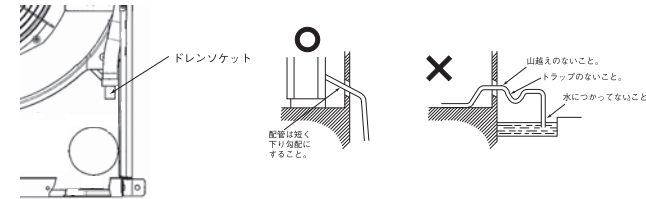
- ドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有毒ガスが侵入する恐れがあります。

##### 注意

- ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するように配管し、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると水漏れ、家財等を濡らす原因になることがあります。

##### 作業手順

1. ドレンソケットに現地側ドレン配管 (VP-20) をつなぎ、粘着テープなどで固定してください。
2. 現地側ドレン配管が屋内を通る場合は必ず市販の断熱材 (発泡ポリエチレン比重 0.03、肉厚 15mm 以上) を巻き、結露を防止してください。



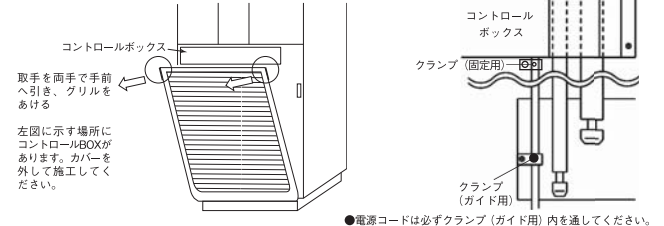
##### お願い

- ドレン配管は結露が生じないよう保温してください。(特に室内及びユニット内)
- ドレン配管は下り勾配 (1/50 ~ 1/100) とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
- ドレン配管は市販の硬質塩ビパイプ VP-20 を使用してください。
- <接着剤使用不可>

#### 6. 電気配線取出し位置および電気配線接続

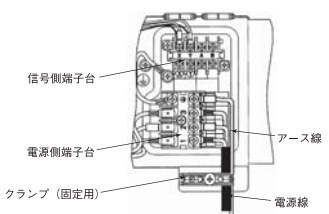
##### コントロールボックス位置及び電源コード経路

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
- 配線は、所定のケーブルを使用し確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。



##### ◆作業手順

- ① 制御箱の蓋 (ねじ1個) を取外してください。
- ② 各配線をユニット内に入れ、端子台に確実に接続してください。
- ③ 各配線をクランプ (固定用) で固定してください。
- ④ 取外した部品を元通りに取付けてください。



#### 7. ユニット据付工事完了後のチェック項目

- ユニット・パネル据付工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良だと...	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていますか。	冷えない	